

戦争遺産を伝える



戦後70年を前に鹿屋市では、市内に残る太平洋戦争時の戦跡を決して風化させてはならない戦争遺産とし、平和教育の一環として活用しています。

この夏、平和教育で行われた「鹿屋市戦跡巡り」「おやこ戦跡めぐり」等を体験し、今回の取材で、あまり知られていないエピソードを聴く機会に恵まれるとともに、詳しい記録が残っていない遺産にも数多く遭遇しました。

平成20年から『うんだもしたん高須』を発行し、多くの高須町民から話を伺ってきた上原 義史さんは、「真珠湾攻撃に参加された話、高須金浜に上陸する進駐軍を見た話など、あまり記録に残されていない貴重な話をたくさん聞いてきました。しかし、たとえどんなに貴重な話を聞いても、記録に残さなければ消えてしまいます。」と記録の大切さも話してくださいました。

鹿屋に残る多くの戦争遺産が今後も平和教育として活用されるためには、記憶の呼び起こしと記録する意識が必要になります。戦争遺産に記憶と記録を吹き込むことで、これまで知らなかった鹿屋の歴史的事実や悲惨な戦争の実態をより深く学ぶことができます。そして改めて平和の大切さを実感できる遺産となるのではないのでしょうか。

【問い合わせ】市商工観光課 ☎0994-31-1121

笠之原海軍航空基地跡
また、笠之原海軍航空基地の付近には、笠之原海軍航空基地がありました。笠之原飛行場は、大正時代に私設飛行場として建設、その後軍が使用しました。しかし、昭和20年3月18日の空襲により格納庫などの軍の施設が破壊され、大きな



▲笠之原掩体壕



▲野里掩体壕

えんたいごう 掩体壕
続いて、野里と笠之原に残る掩体壕を見学。野里の掩体壕が小型で魚雷を収容していたものに対し、笠之原の掩体壕は敵の攻撃から零戦を覆い隠すための壕でした。現在も、ほぼ完全な形で畑の中に残っています。

坂元海軍砲台跡
浜田町坂元の高台に1基の砲台跡が残っています。現在は木々に囲まれています。高須町と錦江湾を一望できる景色であることが分かります。この坂元海軍砲台は、終戦間際の連合軍による上陸作戦に砲撃で対抗し、水際で防ごうとしたものです。実際に使用されることなく、戦後進駐軍により爆破されました。



番号	名称	移動時間
1	坂元海軍砲台跡	10分
2	野里駅跡	2分
3	野里 掩体壕	10分
4	笠之原 掩体壕	2分
5	笠之原海軍航空基地跡	15分
6	鹿屋航空基地史料館	10分
7	桜花の碑	10分
8	進駐軍上陸地の碑	5分
9	高須にある防御陣地 (トーチカ跡)	※移動時間は、車による時間

桜花の碑
鹿屋航空基地の西側、旧野里小学校の跡地には、桜花の碑があります。旧野里小学校は、特攻隊員の宿舎に充てられていました。



鹿屋航空基地史料館
そして、鹿屋航空基地史料館を見学。ここには、旧日本海軍創設期から第二次世界大戦までの多くの記録が残っており、また、零式艦上戦闘機五二型(零戦)や世界で唯一現存する二式大型飛行艇も展示されています。案内係も解説してくれることから、いつでも貴重な話を伺うことができます。

進駐軍上陸地の碑と高須にある防御陣地
その後、高須金浜の進駐軍上陸地の碑、高須海岸に残る防御陣地を見学。現在の海水浴場のすぐ近くにアメリカ軍の上陸に備えて造られた自然石を利用した防御陣地があり、錦江湾入口の南の方に「のぞき窓」のようなものが作られています。



野里駅跡
次に、大隅野里駅跡に移動。ここは、航空基地に隣接する駅として、基地内へ引き込み線が引かれていましたが、昭和20年3月19日、米軍による空襲を受けて駅舎は壊滅、死者約80人以上の多くの犠牲者が出ました。当時、高須に住んでいた立元良三さんは「野里駅の惨事は、多くの犠牲が出ているのに、鹿屋市史の鹿屋市の戦災欄にわずか2行に掲載されているだけです。この空襲では、国鉄職員17人が殉職されたにも関わらず、

